

称号及び氏名	博士(看護学) 長野 弥生
学位授与の日付	令和3年9月25日
論文名	看護実践における新人看護師のモデリングが職場適応に及ぼす影響の探索 An Exploration of the Effect of Novice Nurses' Modeling in Nursing Practice on Workplace Adaptation
論文審査委員	主査 細田 泰子 副査 長畑 多代 副査 北村 愛子

論文内容の要旨

【目的】看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度を開発し、新人看護師のモデリングが職場適応に及ぼす影響を探索することである。

【概念枠組み】文献的考察にもとづき、新人看護師のモデリングが職場適応に影響を及ぼすという概念枠組みを作成した。

【予備研究1】モデリングの概念分析と尺度項目の作成

方法：データベースは医中誌、CiNii、Academic Search Premier、CINAHL Plus with Full Text、PubMed を用い、検索期間を1971年～2018年、キーワードを「モデリング」「modeling」とした。41文献を抽出し、Walker and Avant (2005/2008) の手法で分析した。

結果：概念分析によって6つの先行要件、8つの属性、13の帰結を見出し、看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度(案)となる61項目を抽出した。

【予備研究2】項目の尺度化および専門家会議による尺度案の検討

方法：予備研究1をもとに尺度化した看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度(案)の表面妥当性と内容妥当性を検討するため、看護教育学の研究者で新人看護師の指導経験を有し、修士以上の学位を持った5名を対象に、専門家会議を行った。

結果：各概念と尺度項目の整合性、順序性、表現の明確性、回答のしやすさを検討し、修正・精選を行い、尺度項目は66項目となった。

【予備研究3】看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度(案)の内容妥当性指数(Item-level Content Validity Index : I-CVI) の検討

方法：新人看護師の指導経験を有する臨床経験5年以上で、修士以上の学位をもつ10名(研究者5名と臨床看護師5名)を対象に、看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度(案)について内容妥当性指数を算出した。

結果：I-CVIが0.78未満を示した7項目を削除し、59項目を採択した。

【本研究1】看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度の信頼性・妥当性の検討

方法：全国の一般病床数200床以上の医療施設に勤務する1,457名の新人看護師を対象に、看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度（案）、人格特性的自己効力感尺度、簡易版看護師の自己調整学習方略尺度、個人背景からなる質問紙を実施した。信頼性は、内的一貫性（Cronbach's α 係数）、安定性（再テスト実施）で確認し、妥当性は構成概念妥当性（探索的因子分析、確認的因子分析）、基準関連妥当性を確認した。

結果：358名（回収率24.5%）から回答が得られ、337名（有効回答率23.1%）を分析対象とした。項目分析、探索的因子分析により、＜観察行動＞＜模倣行動＞＜発展行動＞

＜探究行動＞の4因子21項目から構成された。Cronbach's α 係数は0.793～0.885であった。人格特性的自己効力感尺度との相関は $\rho=0.035$ 、簡易版看護師の自己調整学習方略尺度との相関は $\rho=0.596$ であった。再テスト法による級内相関係数は0.771～0.786であった。

【本研究2】看護実践における新人看護師のモデリングが職場適応に及ぼす影響の探索

方法：全国の一般病床数200床以上の医療施設に勤務する新人看護師1,536名を対象に、看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度、新人看護師の職場適応行動尺度・職場適応状態尺度、個人背景からなる質問紙を実施した。概念枠組みにもとづき＜モデリング＞＜職場適応行動＞＜職場適応状態＞を潜在変数とした多重指標モデルを作成し、共分散構造分析を行った。

結果：427名（回収率27.8%）から回答が得られ378名（有効回答率24.6%）を分析対象とした。分析の結果、＜モデリング＞から＜職場適応状態＞へのパス係数が有意ではなかったためパスを削除し、修正指数と改善度を参考に共分散を設定し再分析を行ったところ、GFI=0.901、AGFI=0.850、RMSEA=0.096、CFI=0.918であった。＜モデリング＞から＜職場適応行動＞へのパス係数は0.82、決定係数は0.67、＜職場適応行動＞から＜職場適応状態＞へのパス係数は0.92、決定係数は0.85であった。個人背景による看護実践における新人看護師のモデリングの比較では、有意差は見られなかった。

【倫理的配慮】予備研究2～本研究2までの研究は大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会の承認を得たうえで実施した（申請番号：30-59；2019-30；2019-45；2020-18）。

【考察】看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度の信頼性および妥当性が得られたと考える。新人看護師は本尺度を使用し、自身のモデリングを振り返ることが可能であり、先輩看護師はモデルとなっていることを意識して行動すること、教育担当者は新人看護師と尺度を用いた評価結果を振り返り、改善策を一緒に検討することが必要である。また、モデリングは職場適応行動を介して職場適応状態に影響することから、新人看護師の内的側面から職場適応を促すことが可能であることが示唆されたと考える。今後は、職場適応に影響を及ぼす他の要因についても検討する必要がある。

キーワード：新人看護師、モデリング、職場適応、尺度開発

学位論文審査結果の要旨

本研究は、看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度を開発し、新人看護師のモデリングが職場適応に及ぼす影響を探索することを目的としている。新人看護師が職場に適応するには、理想の看護師像の形成やロールモデル支援を要し、能動的な学習であるモデリングが重視される。モデリングは、学習者である新人看護師が観察した先輩のふるまい、思考、知識、技術をもとに、自身の看護実践を形成するための行動である。本研究は看護実践における新人看護師のモデリングを客観的に評価することが可能となる尺度を開発し、モデリングが職場適応に及ぼす影響を探索した独創的な研究である。

看護実践における新人看護師のモデリング測定尺度の開発では、モデリングの概念分析をもとに尺度項目を作成し、看護教育学の研究者を対象とした専門家会議および新人看護師の指導経験を有し、修士以上の学位をもつ10名の看護師・研究者を対象に内容妥当性指数の算出を行い、尺度項目の表面妥当性と内容妥当性を検討した。一般病床数200床以上の103医療施設に所属する新人看護師に質問紙調査を実施し、有効回答が得られた337名を対象に項目分析、探索的因子分析と確認的因子分析を行った結果、〈観察行動〉〈模倣行動〉〈発展行動〉〈探究行動〉の4因子21項目から構成され、内的一貫性と安定性による信頼性、構成概念妥当性、基準関連妥当性を有する尺度であることが確認された。本尺度は尺度開発のプロセスに沿って開発したもので、看護実践における新人看護師のモデリングを測定することが可能な尺度であることが示された。さらに、新人看護師のモデリングが職場適応に及ぼす影響を探索するため、一般病床数200床以上の86医療施設に所属する新人看護師に質問紙調査を行い、有効回答が得られた378名を対象とし、本研究の概念枠組みに基づく共分散構造分析を行った。その結果、看護実践における新人看護師のモデリングは職場適応行動に影響を及ぼし、職場適応状態に至ることが確認された。本研究の遂行において、倫理的配慮を十分に行ったことが確認された。本研究は、新人看護師のモデリングという社会的学習から職場適応を促すうえで新たな知見を提供し、看護学の発展に寄与するものであると考える。

以上のことから、本研究は博士論文としての学術的価値を有しており、博士（看護学）の学位の授与に値するものと判断した。